

# 華やかに舞い踊る「からくり人形」の世界へ

## ～八女福島<sup>とうろく</sup>の燈籠人形～

八女提灯で明るく照らされた舞台。三味線やお囃子の音に合わせて美しい着物姿の人形が熱狂的な観客の拍手喝采に迎えられて登場し、華やかに舞い踊る…。毎年秋に八女の福島八幡宮の境内で上演されている八女福島の燈籠人形は、江戸時代から続く不思議な「からくり」の世界。260年もの時を超え、賑やかな祭りの夜を彩ってきた燈籠人形には、八女の人々の心を動かす情熱が今でも生きている。

**【公演日】** 「秋分の日」を含めた3日間

**【会場】** 福島八幡宮 地図D-2  
(八女市本町105-1福島八幡宮境内)



### 【沿革】

福島八幡宮の放生会に、人形の燈籠を奉納したのが「燈籠人形」の始まり。

明和9年(1772)には、浄瑠璃作者福松藤助(松延甚左衛門)が大坂より帰郷。人形を動かす工夫や当番町制の上演に力を貸して以後、動く人形が登場した。それが、主役となり現在の「からくり人形」の基礎ができる。

天保15年(1844)に久留米藩の大検令(節約規制)により上演が禁止されていたが、明治4年(1871)燈籠人形の奉納が復活する。以後、第二次世界大戦による燈籠人形奉納の中止期間を経て、昭和52年(1977)には「八女福島の燈籠人形」として国の重要無形民俗文化財に指定される。



### 【演目】

- よしのやまきつねただのぶはつねのつづみ
- ・吉野山狐忠信初音之鼓
- さつまはやとくわかまるいつくしまじんじゃもうで
- ・薩摩隼人国若丸巖島神社詣
- たまものまえ
- ・玉藻之前
- はるげしきつくしがたなじまもうで
- ・春景色筑紫濁名島詣

以上、4つの芸題を、保存会で毎年順番に上演している。

### 【燈籠人形の舞台】

八女福島の燈籠人形の舞台は、二階建て三層に及ぶ屋台。建物全体は金箔、銀箔や漆塗りで作られており、これは福島仏壇を造る技法の基になったとされる。優雅さ精巧さは文楽の人形浄瑠璃に匹敵するといわれている。